

上半期の渡島

観光客17.6%増826万人

檜山は4.3%増81万人

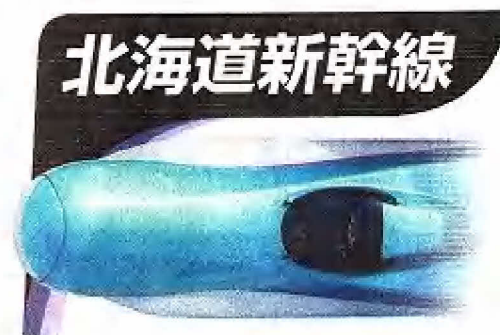
渡島総合振興局と檜山振興局は2016年度上半期（4～9月）の道南の観光客数をまとめた。北海道新幹線の開業効果が大きく、渡島管内は前年同期比17・6%増の826万4700人、檜山管内も同4・3%増の81万6200人だった。ただ、自治体別にみると、森町と奥尻町が前年同期を下回るなど、新幹線効果が道南全域に広がっていない現状も浮き彫りとなった。

（藤本陽介、志村直）

新幹線開業によって道南のメディア露出度が増えたほか、JRグループや道南の自治体、青森県などが大型観光企画「青森県・函館デスティネーションキャンペーン」を展開したことなどにより、函館市を中心に道南への観光客が増えた。渡島管内では、函館市が同14・1%増の366万4700人、新函館北斗駅のある北斗市が同19・9%増

の91万9300人と、それぞれ10%以上の伸び。木古内町と鹿部町は、開業に合わせて新設された道の駅が人気で、集客の大幅増につながった。檜山管内では、海水浴場の元和台浜公園「海のプール」でのイベントが好天に恵まれた乙部町が16%増の7万9900人だった。一方、森町は同5・9%減の51万5500人。これ

北海道新幹線開業で好調な伸びを見せた今年上半期の道南の観光客数。五稜郭公園などの観光地は例年以上のにぎわいを見せた＝4月26日



まで町内で昼食をとっていた観光客が、隣接する鹿部町の道の駅や函館などに流

れたとみられる。同1・4%減の2万700人だった奥尻町は、町によると、夏の台風で団体ツアー客のキャンセルが出たことなどが影響したという。

また、全体では増加した知内、八雲、長万部、江差の各町も「日帰り」「宿泊」別で見ると、宿泊客数が減少。檜山振興局は、減少率が25・9%と最も高かった江差町について、函館方面に宿泊客を奪われ、通過型観光が顕著になった可能性があるとしている。

渡島管内の外国人宿泊客数は中国、台湾との間で国際線の運休、減便があったため、同6・9%減の19万400人となった。

道南の2016年度上半期観光客数

	自治体	人数(人)	増減率(%)
渡島管内	函館市	366万4,700	14.1
	七飯町	112万5,500	3.8
	北斗市	91万9,300	19.9
	森町	51万5,500	▲5.9
	木古内町	42万3,600	805.1
	八雲町	41万8,400	2.8
	松前町	36万4,100	3.6
	鹿部町	34万6,500	139.8
	長万部町	31万4,800	1.2
	知内町	11万5,300	8.8
檜山管内	福島町	5万7,000	7.8
	計	826万4,700	17.6
	江差町	32万6,400	4.3
	上ノ国町	8万2,200	0.4
	厚沢部町	10万7,200	5.7
	乙部町	7万9,900	16.0
	奥尻町	2万700	▲1.4
	今金町	2万6,900	8.9
	せたな町	17万2,900	0.6
	計	81万6,200	4.3

※増減率は前年同期比。
▲は減少

